



TITLE:

京大広報 No. 417

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 417. 京大広報 1991, 417: 179-184

ISSUE DATE:

1991-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209247>

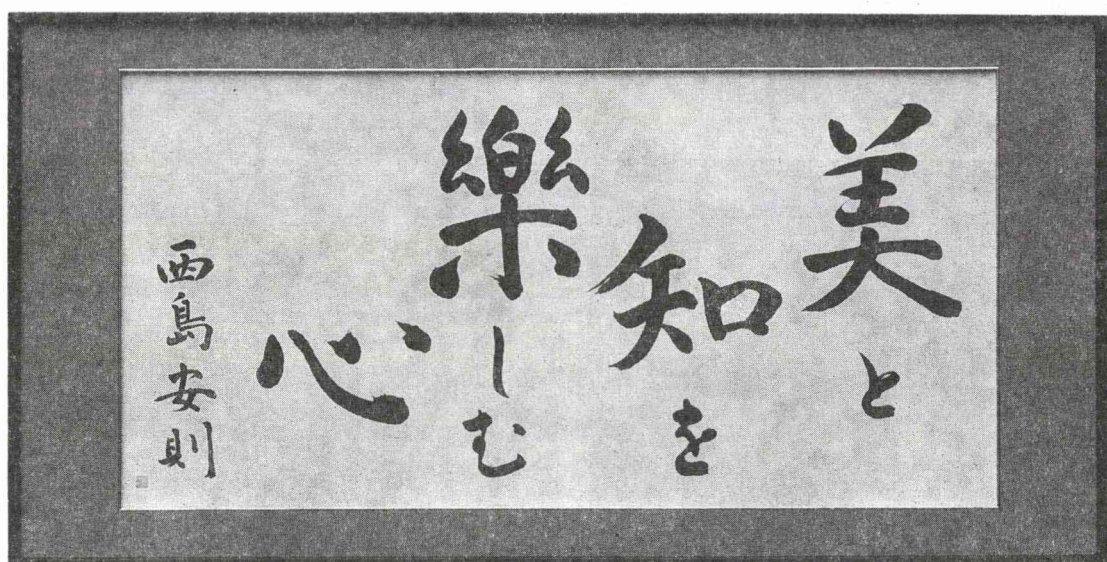
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 417

京都大学広報委員会



京大会館に掲げられている西島総長の扁額  
(京大広報 No. 410「学部入学式における総長のことば」参照)

## 目 次

### <大学の動き>

- 西島総長、カナダ訪問…………… 180  
日本語・日本文化研修留学生について…………… 180  
部局長の交替等…………… 181

### <紹介>

- 医療技術短期大学部衛生技術学科…………… 181

- 計 報…………… 182

### <資料>

- 人事院勧告の取り扱いに関する  
国立大学協会の要望書…………… 183

### <コラム>

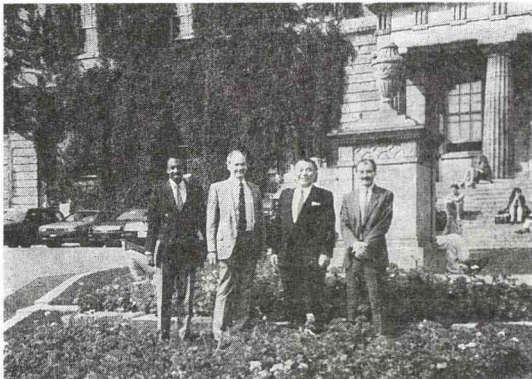
- 都市化と自然災害  
防災研究所教授 島 通保…………… 184  
写真集企画委員会からのお願い…………… 184

## ＜大学の動き＞

## 西島総長、カナダ訪問

西島安則総長は、10月2日から、カナダ国ケベック州における高等教育・研究機関の実情視察及び学術交流に関する意見交換を行うために同州を訪れ、10月7日帰国した。

今回の訪問は、同国ケベック州政府の招きによるもので、同州にあるマギール大学、ケベック州立大学モントリオール校、シェブルック大学、モントリオール大学、ケベック州立大学本部（ケベック市）、ラバル大学並びに関係教育研究機関等を訪れると共に外務省アジア局、文部省高等教育局などの関係者とも懇談し、高等教育、学術研究のあり方と課題及び学術国際交流について意見交換・討議を行った。

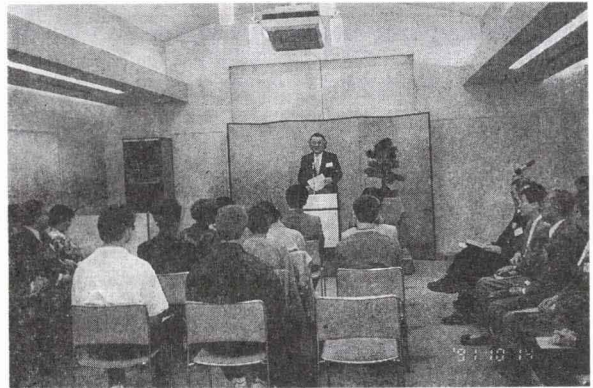


モントリオール大学の本館前にて

## 日本語・日本文化研修留学生について

昭和57年度から、本学では「日本語・日本文化研修留学生制度」（広報No.240参照）による留学生を受け入れている。平成3年度は9か国から13名を留学生センターで受け入れることとなり、10月14日（月）国際交流会館（芝蘭会館）において西島安則総長はじめ関係教職員の出席のもとに開講式が行われた。

また、平成2年度の留学生14名に対する修了式が9月11日（水）京大会館において行われ、修了証書が授与された。



平成3年度日本語・日本文化研修生開講式

本年度の研修の概要は、次のとおりである。

日本語・日本文化研修留学生に対する教育課程、  
授業計画及び授業時間数

|                         | 授 業 科 目                        | 授 業 時 間 数      |               |           |
|-------------------------|--------------------------------|----------------|---------------|-----------|
|                         |                                | 第一期<br>(10～3月) | 第二期<br>(4～9月) | 計         |
| 〔Ⅰ〕<br>日<br>本<br>語      | ① 読解・口頭表現                      | 時間<br>30       | 時間<br>30      | 時間<br>60  |
|                         | ② 日本語講読                        | 30             | 30            | 60        |
|                         | ③ 文章表現                         | 30             | 30            | 60        |
|                         | 小 計                            | 90             | 90            | 180       |
| 〔Ⅱ〕<br>日<br>本<br>事<br>情 | ① 日本事情 (A)                     | 32             | 26            | 58        |
|                         | ア 日本の社会に<br>関する概説              | (10)           |               | (10)      |
|                         | イ 日本の法政に<br>関する概説              | (12)           |               | (12)      |
|                         | ウ 日本の経済に<br>関する概説              | (10)           |               | (10)      |
|                         | エ 各分野の諸問<br>題                  |                | (26)          | (26)      |
|                         | ② 日本事情 (B)                     | 50             | 42            | 92        |
|                         | ア 日 本 文 学                      | (20)           | (22)          | (42)      |
|                         | イ 日本文化・歴<br>史（風土を含<br>む）       | (30)           | (20)          | (50)      |
|                         | 小 計                            | 82             | 68            | 150       |
| 〔Ⅲ〕<br>特<br>別<br>教<br>育 | ① 現代産業及び現<br>代文化に関する<br>参観・研修等 | 60             |               | 60        |
|                         | ② 伝統産業及び伝<br>統文化に関する<br>見学等    |                | 60            | 60        |
|                         | ③ 特 別 講 義                      |                | 30            | 30        |
|                         | 小 計                            | 60             | 90            | 150       |
|                         | 日本語強化コース                       | 240            | 80            | 320       |
|                         | 合 計                            | 時間<br>472      | 時間<br>328     | 時間<br>800 |



## 部 局 長 の 交 替 等

### 原子エネルギー研究所長

若林二郎研究所長の任期満了に伴い、その後任として高橋幹二原子エネルギー研究所教授（原子炉保安工学研究部門担当）が11月1日任命された。任期は平成5年10月31日までである。

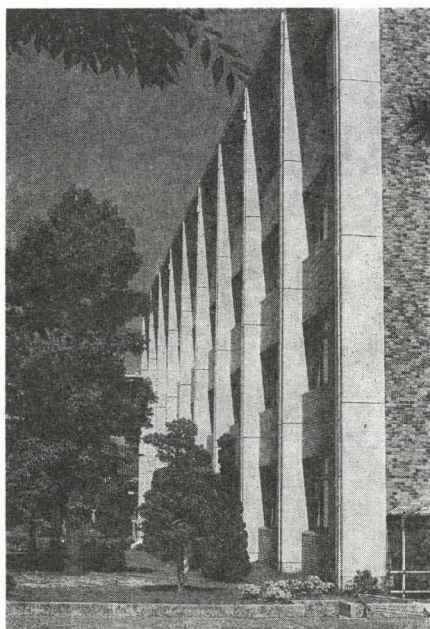


### <紹介>

### 医療技術短期大学部衛生技術学科

#### ◇沿革

本短期大学部は昭和50年に3年制の医療技術短期大学部として京都大学に併設された。短期大学部開設時には看護学科及び専攻科助産学特別専攻が設けられた。翌年に学年定員40名の衛生技術学科が、医学部附属臨床検査技師学校を母体として増設された。その後、昭和57年に理学療法学科、作業療法学科が増設され今日に至っている。校舎は4階建（一部5階建）で京都大学医学部附属病院西部構内にあり、附属病院の西、薬学部の南に位置する。



#### ◇教育について

衛生技術学科は臨床医学に欠くことのできない臨床検査、衛生検査の領域に携わる人材を育成することを目的としている。近年進歩の著しいこの分野の科学技術を有効に駆使するには、医学の各分野に関してはもちろん、基礎科学、工学的知識をも習得することが要求される。従ってこのような広い領域にわたり、基礎的な知識と技術を身につけること、さらにそれを基にして、自分で創造的な物の考え方を習得することを教育方針としている。

1 回生では一般教育科目と基礎専門科目の一部、2 回生では基礎専門科目と臨床専門科目を学ぶ。また週に2日ほどの実習がある。3 回生では京大病院における臨床実習及び学内実習ゼミナールを行う。カリキュラムの大きな特徴は3 回生の実習ゼミナールにある。学生1～2名に本学科や京大病院の指導教官がつき、半年間にわたりそれぞれのテーマについて研究を行うものである。学生は研究計画、実験の進め方さらに結果の解釈と研究のまとめ方を学ぶ。2 回の発表会を通して研究発表の方法や質疑応答のしかたについても学ぶ。

これらの教育は衛生技術学科の教官9名（教授3、助教授3、助手3）により臨床血液学、臨床病理学、臨床生理学、臨床免疫学、生化学、臨床化学、臨床微生物学等を担当、また本短期大学の他学科教官が一般教育のほか、病理学、解剖学等を担当、さらに医学部、京大病院及び他大学などから多くの非常勤講師の協力を得て、総勢51名で実施している。

#### ◇研究について

学科の教官はそれぞれの専門分野において次の研究を行っている。

- 1) 白血病を中心とする造血器疾患の病態解析と治療
- 2) 虚血性心疾患（心筋梗塞など）の病態解析と治療
- 3) 膠原病を中心とする自己免疫疾患の病因、病態及び臨床研究
- 4) 血清中のレクチン（糖結合タンパク質）の構造と生理的意義に関する研究
- 5) 酵素を試薬とする生体成分の分析法の開発
- 6) 細菌毒素の遺伝子解析

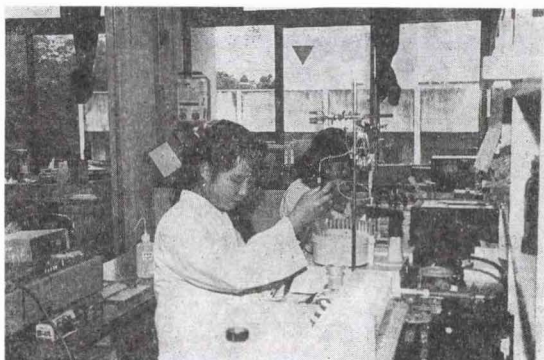
- 7) 骨髄幹細胞に関する研究
  - 8) アルギナーゼ(酵素)の臨床的意義に関する研究
  - 9) 血中セリン型蛋白分解酵素に関する研究
- いずれも医学部、京大病院、薬学部等の関連機関と協力しながら研究を進めている。

#### ◇卒業後の学生

所定の単位を修得して卒業すると臨床検査技師の国家試験受験資格が与えられる。本学卒業生の多くは病院の臨床検査部や企業研究所に就職している。

#### ◇医療技術短期大学の将来について

近年、医療の進歩に伴い、臨床検査は医療の中で益々重要な位置を占めるようになり、また臨床検査技術も高度かつ多様化してきた。こうした医療の進歩が、すみやかに広く社会に還元されることは社会的要請であり、より一層高い資質を備えた臨床検査技師の養成に加え、優れた指導者の養



衛生技術学科3回生の実習ゼミナール

成が求められている。看護婦(士)、理学療法士、作業療法士など、他の医療技術者についても同様の事情がある。すでに、他学の一部においては、医療技術者養成施設の4年制への移行がなされており、このような趨勢の中で、本短期大学部においても、その具体的な検討が進められている。

(医療技術短期大学部)

## 計 報

### 磯田 和男 文部事務官

文部事務官 磯田和男<sup>いそだ</sup>氏は、9月18日逝去された。享年55。

同氏は昭和49年本学医学部附属病院に就職され、以後守衛として業務一筋に勤務され、その卓越した警備技術は高く評価されてきた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(医学部附属病院)

### 小倉 親雄 名誉教授

本学名誉教授 小倉親雄 先生は、10月7日逝去された。享年78。

先生は、昭和11年3月京都帝国大学文学部史学科を卒業、京都大学附属図書館事務長を経て、昭和31年3月本学教育学部助教授、同44年1月教授となり、同52年4月停年により退官され、京都大

学名誉教授の称号を授与された。

この間、図書館学講座の助教授・教授として、学生の教育・研究指導にあたるかたわら、京都大学評議員、教育学部長事務取扱、教育学部長を歴任された。

先生の専門は、広い意味での図書館思想史であり、とくにアメリカ合衆国における図書館学の確立の時代を中心とする『アメリカ図書館思想の研究』は、この分野における優れた業績であり、これに対して日本図書館学会賞を授与された。

さらに、ドイツにおける図書館学思想の形成に関する研究及び幕末・明治期のわが国におけるパブリック・ライブラリーの受容に関する研究などにより、わが国における図書館学の確立に多大の貢献をされた。

なお、先生は、日本図書館協会から、デュイの十進分類法に関する研究により NDC 賞を、長年にわたる図書館学の研究・教育への貢献に対し特別功労賞を授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(教育学部)



## &lt;資料&gt;

## 人事院勧告の取り扱いに関する国立大学協会の要望書

このたび国立大学協会会長から、人事院勧告の取り扱いに関し、以下のとおり文部大臣及び総務庁長官宛に要望書を提出し、その趣旨に則り配慮方を要望した旨報告があった。

平成3年9月30日

国立大学協会会長  
有 馬 朗 人

## 人事院勧告の取り扱いに関する要望書

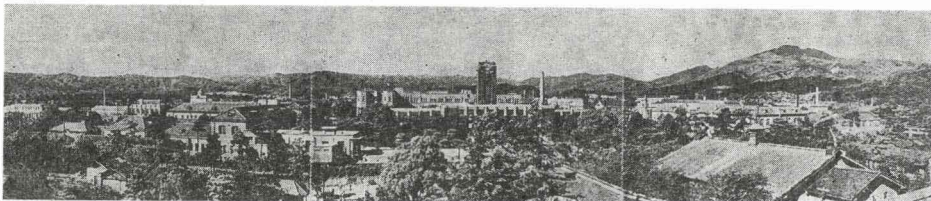
人事院による国家公務員の給与勧告が、労働基本権制約の代償措置として、また国家公務員の給与水準を適正に維持する制度として定着し、公務の能率的運営と公務員労使関係の健全性の実現に大きく寄与していることは周知の事実であります。

この数年間は、関係者の努力により、勧告どおり給与の改定が行われ、これにより各大学においても職員の勤務意欲の向上や、労使の信頼関係の保持等の点で好ましい影響がもたらされており、今年度の勧告の完全実施に対する期待には更に大きなものがあります。

もとより、当国立大学協会は、国の財政が極めて厳しい状況におかれていることも十分に承知しているところであり、各大学においては、過去数次にわたる定員削減及び行政経費の節減・抑制についても不断の努力を重ねております。

現在、国立大学においては、高等教育及び学術研究の高度化の積極的推進が最重要課題とされており、またこれが国民的期待でもあると考えます。しかしながら、国立大学における教育研究環境としての研究費、施設設備、教員の給与については危機的状況にあり、上記の課題に積極的に取り組むためには、大学教職員の適切な処遇を確保することが必要不可欠であります。このことがひいては優秀な人材を確保し、将来にわたる我が国の高等教育及び学術研究の進展に寄与するものと確信いたします。

上記の理由により、国立大学協会は、人事院勧告が、早期完全実施されることを強く要望する次第であります。



昭和22年(1947)当時の本学全景

—創立50周年記念「京都大学風景」絵葉書より—

